

2021年9月

株式会社ユニマツトキャラバン

## コーヒー製品の価格改定のお知らせ

拝啓 貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

株式会社ユニマツトキャラバン（本社：東京都港区、代表取締役社長：寄神拓磨）は、2021年10月1日より、「キャラバンコーヒー」「可否茶館」のコーヒー製品価格を改定させていただくことといたしました。

コーヒー生豆相場は、2021年2月から上昇基調となり、5月28日には約4年半ぶりとなる1ポンドあたり160セントを超えるまで高騰、さらには7月26日に1ポンドあたり207セントまで急騰し、2014年以来の高値となるなど、今後も高値圏で推移することが懸念されております。

相場高騰の要因としまして、供給面では世界最大の生産国であるブラジルが裏作にあたることを背景に、昨年11月から続く降雨不足による天候不順、コロナ禍で発生した海上輸送網の混乱などでの供給不足が懸念された一方で、需要面では世界各国において新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、経済活動の回復に伴うコーヒー消費量の増加が見込まれ、5月末にはコーヒー豆の需給逼迫を織り込んだ相場水準まで高騰しておりました。こうした状況の中、7月20日にはブラジルにおける広範囲のコーヒー生産地域にて1994年以来となる大規模な降霜が確認され、コーヒー相場はさらに急騰し、今後も供給不足の解消は困難との見通しから高値相場の長期化が懸念されております。

また、為替相場は2021年1月より円安傾向に転じ、現在1ドル=110円台と、1月よりも約9円の円安水準となり、輸入に頼るコーヒー生豆の価格は上昇、調達価格に多大な影響をもたらしております。

このように「コーヒー生豆相場高」と「円安」が重なる深刻な状況に直面し、今年のコーヒー生豆の調達価格（円換算）は、昨年4月に比べ150%以上に上昇しています。更に、資材やエネルギー原料、物流費の高騰といったコストアップ要因も加わり、コーヒー製品のコストは、大幅に上昇しています。

このような市場環境の下、コスト上昇分の吸収に向けた企業努力を行ってまいりましたが、今後も一段と厳しい環境が予測されており、企業努力だけではコスト上昇分を吸収することは極めて厳しく、やむなく、コーヒー製品の価格を改定させていただくことといたしました。

つきましては、10月1日より家庭用製品におきまして、メーカー出荷価格の改定を実施させていただき、小売店の実質店頭価格は20%程度上昇するものと見込んでおります。また、業務用コーヒーについても、10月から納入価格を順次改定させていただきます。併せて、直営ショップでの店頭価格も順次改定させていただきます。

今後も、高品質でおいしいコーヒーをご提供すべく一層努力してまいり所存でございます。  
何卒ご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具